



センターからのお知らせ



奄美大島と徳之島では、交通事故の多い9月15日から11月15日まで、「アマミノクロウサギ交通事故防止キャンペーン」を実施し、事故防止を呼びかけています。

この期間は毎年交通事故が多く発生しています。いつも以上に夜間の運転にお気を付けてください。

2022年アマミノクロウサギ死体確認数

(2022年1～8月末時点)

・奄美大島

交通事故 **54**件 イヌ・ネコによる捕殺 **14**件
その他・不明 **44**件

・徳之島

交通事故 **19**件 イヌ・ネコによる捕殺 **10**件
その他・不明 **15**件

※不明は死体の損傷がひどく、死因が特定できなかったものことです。この中にも交通事故やイヌ・ネコによる捕殺が含まれると思われます。
※未解剖も含むため、件数は変更する可能性があります。



国道58号線(役勝)に新設された移動式看板。
見かけたら運転注意!

最新のアマミノクロウサギ事故多発道路はここ!



要注意区間

奄美大島



要注意区間

徳之島

奄美大島では南西部の国道・県道で交通事故が多発しています。ウサギは道路上でじっとしていることも。走りやすい道路だからと油断せず、夜間は注意して走行しましょう。

※アマミノクロウサギの死体や傷ついた個体を見かけたら奄美野生生物保護センターまでご連絡ください。

今季の一枚「ハブを食べるアカマタ」

今季の一枚はなんと、ハブを食べるアカマタです!無毒のヘビが猛毒のヘビを生きのまま食べている状況なので、「普通は逆じゃないの?」と突っ込みたくなりますが、自然は時に予想外な一面を見せることがあります。7月14日アマミヤマシギ調査中の夜中3時くらいに、奄美市住用町の林道で発見。見つけた当初はまだ頭が飲み込まれたくらいで、そこから全てを飲み込むまでに約30分程かかりました。



飲み込み終わる直前。
口からハブの尻尾が出ている。

アカマタがハブを飲み込んでいるところ

2022.9.13 発行

奄美野生生物保護センター

〒894-3104 鹿児島県大島郡大和村思勝551

TEL: 0997-55-8620 FAX: 0997-55-8621

URL: <http://kyusyu.env.go.jp/okinawa/awcc/>

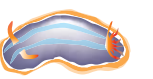
奄美野生生物保護センター ニュースレター

編集・発行
奄美自然体験活動推進
協議会
通巻67号

奄美の風だより

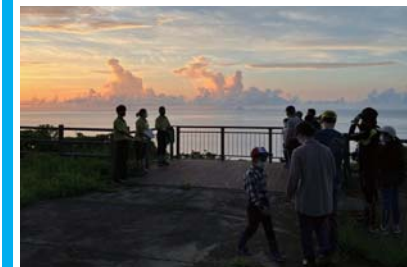


センター&協議会 News



2年ぶりに夏休み子ども自然観察会を実施しました!

8/13(土)に「夏休み子ども自然観察会」として夜の森での自然観察会を実施しました。夏休み子ども自然観察会は「奄美群島国立公園ふれあい行事」として毎年保護センターと協議会の共催で主に小中学生を対象として行っているイベントです。昨年度はコロナの影響で残念ながら開催中止となったため、今年度開催は2年ぶりになります。場所は和村大金久で、奄美海洋生物研究会の木元氏に講師を務めてもらいました。当日は夜も晴れで、アマミハナサキガエル、オットンガエル等のカエル類をはじめ、珍しい毒蛇のヒャンなどが見られました。また昼行性のズアカアオバトが木の枝に止まって寝ていたためその姿をじっくりと観察でき、参加者はとても楽しそうでした。参加者は小中学生と保護者等含め20名で、大人子ども関係なく夜行性の生きものに興味津々な様子で、観察会は大成功でした。



開会式風景(嶺山公園にて) 観察中の様子・・・木元氏の話に熱心に聞く参加者たち 観察会終了時にスタッフと参加者で

今の時期に見られる動植物



オキナワチョウトンボ

南西諸島に分布し北限は沖縄本島とされており奄美群島では偶産種であったが、近年定着した。偶産記録はトカラ列島や九州本土で確認されている。ベッコウチョウトンボの日本産亜種とされる。水草の茂る湖沼に生息し、成虫は6月から9月頃に見られる。



コシブトンボ

奄美大島以南の南西諸島に生息。未成熟期のオスは淡い水色で、成熟すると色が濃くなり、複眼は美しい水色をしている。メスの体色は黄緑色。草丈の低い湿地や湖沼の岸辺に生息する。成虫は5月から10月頃に見られる。草刈り等の管理がなされ、草丈が低いことが生息条件として重要。



奄美群島市町村だより

自分たちの地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。



今回は 与論町 です



与論島全景

与論町は奄美群島の最南端で、沖縄本島の北 23km に位置する美しいサンゴ礁の海に囲まれた 20 km²の小さな島です。

与論町の木 「シマクロキ」

町木である「シマクロキ」は住居や畑の周辺等昔から防風林として植えられており、島のあちこちで見ることができます。



おすすめの観光名所「百合ヶ浜」



与論島の東側にある大金久海岸の沖合 1.5km に、大潮の干潮時にだけ現れる神秘の砂浜です。この百合ヶ浜には星の形をした星砂があり、歳の数だけ拾うと願いが叶うという言い伝えがあります。拾った星砂は持ち帰っても大丈夫です！（必要以上に持ち帰るのはやめましょう）



与論町には名前がついているだけで 60ヶ所以上の海岸があり、毎朝ボランティア団体が海岸の漂着ゴミを拾っています。観光客の皆さんも気軽に参加することができますので、ご来島の際は是非参加してみてください。「うんじゃみ」と検索すると、SNS 等に情報が 있습니다。

海岸ボランティア清掃活動の様子 [与論町役場環境課]

いきもののふしぎ ~ 糞虫のお話 ~

糞虫というどのようなイメージが湧いてくるでしょうか？「ウンチを食べているから汚い」「よく分からない」などが多いかと思いますが、しかし、糞虫たちは動物の糞を分解してくれるという生態系の重要な役割を担っています。奄美には約 36 種類の糞虫が生息しており、アマミノクロウサギやリュウキュウイノシシの糞を食べているため、それらの動物がいなくなると奄美の糞虫たちもなくなってしまいます。



オオシマエンマコガネ♂
奄美大島・徳之島に生息し、成虫は春から秋にかけて見られる。主にアマミノクロウサギの糞を食べっており、クロウサギの分布と重なるようである。



アマミセマダラマゴソコガネ
アマミノクロウサギ等の獣糞に見られる。成虫は冬季に個体数が多くなり、夏季には見られない。糞の内部で見られることが多い。



アマミエンマコガネ
奄美大島・徳之島に生息。成虫は春から秋に発生する。見た目はオオシマエンマコガネに似るが、本種はクロウサギの糞よりも動物の腐肉を好む。



マルダイコクコガネ♂
奄美大島・徳之島に分布。雄は頭部に一本の角がある。成虫は秋季にかけて多くなる。林内を夜間徘徊し、アマミノクロウサギの糞に集まる。飛ばない。



マルエンマコガネ
北海道から沖縄まで日本中広く分布している。成虫は春から秋に発生する。動物の糞や死骸に集まり、平地・山地で普通に見られる種である。



ヒメフチトリアツバコガネ
奄美群島とトカラ列島に生息し、腐敗した動植物によく集まる。成虫は夏に出現し、灯火によく集まる。写真は交尾中で、上が♂、下が♀。

生きものと数理 ~ イタドリの茎がストロー状なのはなぜか？ ~



イタドリ



ストロー状のイタドリの茎

みなさんは「イタドリ」という植物をご存じでしょうか？また、イタドリの茎が中空（ストロー状）になっていることを知っていますか？実は茎が中空になっている植物はイタドリだけではありません。例えば、代表的なものにはハルジオン、タケ、タンポポ、ヒマワリ、ヨシ、トクサ等があります。ちなみにイタドリは山地や平地の比較的荒れた土地に生育する多年生の植物です。ではなぜ、上に挙げたような植物の茎は中空になっているのでしょうか？イタドリを含め「成長スピードが速い」や「一年草である」などの特徴がある植物は茎が中空であることが比較的多いです（ちなみにイタドリは成長は早いですが一年草ではなく多年草です）。サイクルが短いまたは成長スピードが速い植物にとって重要な課題の一つは、「いかに早く成長し、いかに風などの曲げる力に耐えるか」です。つまり、「いかに少ない材料で強い体を作るか」ということとなります。このとき曲げに耐える強さを表す指標として用いられるのが「断面係数」と呼ばれるものです。同じ分量の材料を用いて中空の茎を作る場合と芯の詰まった棒状の茎を作る場合の断面係数を比較してみると、中空の方が詰まっている時よりも大きい、つまり曲げに対して強い事が分かります。茎を中空にした方が効率よく強い植物体を形成できるということです。このように生きものの世界にも物理や数学の法則が隠れているので、こういう視点で観察してみても面白いですね。